

平成25年度 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

I 法人本部

障害福祉サービスにおいては、名古屋市から譲り受けた緑風も丸3年となり、軌道に乗り始めている。昨年度開設した5箇所の相談支援事業は、多くの計画作成依頼を受け、たった2年のうちに契約者が千人に迫ろうとしている。その他事業も、一部には課題があるものの概ね順調に推移し、まずまずの数字を残している。名古屋市の公募による障害者基幹相談支援センターも、精神障害を専門とするNPO法人との共同運営にて委託を受けることが決まった。

介護保険サービスでは、昨年度の報酬改定による収入減に苦戦する状況の中、冬季に入院者が多発し、昨年に引き続き厳しい運営状況となった。この状況を脱するべく、瀬古マザー園拠点全体として利用促進を図る取り組みを進めている。

法人全体では、夜勤までをこなす介護職員が恒常的に不足し人材確保が課題となった。また、経営職、管理職の育成も課題であり、これに対しては法人として「未来プロジェクト」という幹部育成研修を、年度後半から次年度にかけて実施している。

昨年度の給与制度変更につき、人材育成を目的とした新たな人事考課システムを1年がかりで構築し、新年度から運用する。職員への期待を明確にし、それを評価しコミュニケーションを深めることで、人材育成の土壌を醸成していきたい。

本部事務局は、年度途中で職員が入れ替わりフレッシュな顔ぶれとなった。基本的業務を早急に習得し、求められる役割に少しでも応えていきたい。

1 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 理事会の開催状況 (計6回)

平成25年5月27日(月) 午後3時30分	
議案	第1号議案 平成24年度事業報告・決算(案)について 第2号議案 評議員の選任について 第3号議案 諸規程の制定・改定について 第4号議案 瀬古マザー園給湯管改修について 第5号議案 基幹相談支援センターについて 第6号議案 新会計基準への移行について
主な発言	・資産運用の規程と基金運営に関する規程等の整合性の整理が必要である。

平成 25 年 8 月 7 日 (水) 午後 1 時 30 分	
議案	第 1 号議案 施設長の任免について 第 2 号議案 資産運用方針について
主な発言	・(名古屋盲人情報文化センターでの不適切な取り扱いを受けて) 内部での会計・運営に関する監査等の検討および倫理観の再認識が必要。
平成 25 年 10 月 22 日 (火) 午後 3 時 30 分	
議案	第 1 号議案 施設長の任免について
主な発言	・施設長人事について、内部から育成、抜擢できるように、その道筋をつけていくことが必要。 ・基幹相談支援センターの運営について精神障害分野の経験やネットワーク不足について指摘。他の理事より、今回共同運営する「NPO まちかどサポートセンター」は、その点の経験、ネットワークともに十分であると発言。 ・愛盲報恩会の活動については、更なるPRが必要。
平成 25 年 11 月 22 日 (金) 午後 3 時 30 分	
議案	第 1 号議案 上半期事業報告(案)・中間決算(案)について 第 2 号議案 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 戸田川グリーンヴィレッジ 通所生活介護の開始について 第 4 号議案 障害者基幹相談支援センターについて
主な発言	・工事や入札等において、理事会での承認が必要な内容については、必ず理事会承認の手続きを踏むこと。
平成 26 年 2 月 10 日 (月) 午後 3 時 30 分	
議案	第 1 号議案 名古屋盲人情報文化センター トイレ等改修工事について
主な発言	・経理規程の変更は、一部変更ではなく、モデル規程に沿った全部改定の方角で検討を。
平成 26 年 3 月 27 日 (木) 午後 4 時 00 分	
議案	第 1 号議案 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 平成 26 年度事業計画・収支予算(案)について 第 3 号議案 積立金の積立・取崩しについて 第 4 号議案 経理規程改訂について 第 5 号議案 給与規程の改訂について 第 6 号議案 名古屋盲人情報文化センター トイレ改修工事入札について 第 7 号議案 緑風 名古屋市への協議書提出(駐車場造成)について 第 8 号議案 土地の取得について
主な発言	・来年度から新会計基準に移行するが、旧会計とのつながりがわかるようにする必要がある。 ・名古屋盲人情報文化センターにおいて、ガイドヘルパー要請講習実施に必要な資格を、資格手当とするかどうか検討を。

イ 評議員会の開催状況 (計 3 回)

開催年月日	議 題
平成 25 年 5 月 27 日 (月) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 平成 24 年度事業報告・決算(案)について 第 2 号議案 諸規程の制定・改定について
平成 25 年 11 月 22 日 (金) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 上半期事業報告(案)・中間決算(案)について 第 2 号議案 第一次補正予算(案)について 第 3 号議案 戸田川グリーンヴィレッジ 通所生活介護の開始について 第 4 号議案 障害者基幹相談支援センターについて
平成 26 年 3 月 27 日 (木) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 第二次補正予算 (案) について 第 2 号議案 平成 26 年度事業計画・収支予算(案)について 第 3 号議案 経理規程の改訂について 第 4 号議案 給与規程の改訂について

ウ 部長会 (施設長会) の開催状況 (計 12 回)

開催年月日	議 題
平成 25 年 4 月 25 日 (木)	決算実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 名古屋市の基幹型相談支援センター構想について 情文センター用具の不適切な取り扱いについて
平成 25 年 5 月 22 日 (水)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 決算監事監査についての報告 各種規程の制定、変更について
平成 25 年 6 月 20 日 (水)	名古屋盲人情報文化センター報告について 実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 資産運用規程・方針について 購入・工事承認手順の整理について
平成 25 年 7 月 24 日 (水)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 8/7 理事会 開催について
平成 25 年 8 月 22 日 (木)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 人事について 旅費規程について
平成 25 年 9 月 19 日 (木)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 組織体制について

平成 25 年 10 月 25 日 (金)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 理事会(10/22)の報告 人事考課制度の構築について 新会計基準への移行について
平成 25 年 11 月 21 日 (木)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 冬季賞与について
平成 25 年 12 月 19 日 (木)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 未来プロジェクトについて
平成 26 年 1 月 28 日 (火)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 人事考課制度について 昇進・昇格・昇給について
平成 26 年 2 月 20 日 (木)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 平成 26 年度事業計画について
平成 26 年 3 月 24 日 (月)	実績報告・各施設報告について 統括会議報告について 各種規程の変更について

(2) 登記事項

法人 平成 24 年度 資産変更登記

平成 25 年 5 月 29 日登記

(3) その他事業

ア 愛盲報恩会事業

- ・助成事業 24 団体 1,260,000 円
- ・第 8 回 近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞贈呈式
名古屋盲人情報文化センターにて 平成 25 年 12 月 7 日

イ 国兼基金事業

物故者慰霊祭 平成 25 年 10 月 19 日

ウ 補正予算

- ・第一次補正 平成 25 年 11 月 22 日 理事会・評議員会承認
- ・第二次補正 平成 26 年 3 月 27 日 理事会・評議員会承認

エ 職員研修

若手職員研修 25 名 平成 25 年 5 月～平成 26 年 1 月 5 日間
(採用 5 年未満対象 成長分野等人材育成支援事業の活用による)

若手施設長・課長対象研修

15名 平成26年1月30日～8月28日(予定) 5日間

法人基礎研修 35名 平成25年4月10日・10月2日

職員全体研修(会場 名古屋国際会議場) 172名

企画テーマ「我が法人の強み再発見」平成26年3月8日

(4) 会計手続について

平成26年度より新会計基準へ移行することとし、経理ソフト選定と導入、経理担当者への操作講習等を実施した。

2 助成・寄付に関する特記事項(順不同)

(1) 助成に関する特記事項

清水基金	戸田川グリーンヴィレッジ 改修工事	5,000,000円
日本財団	光和寮 車両整備	540,000円
日本財団	明和寮 車両整備	2,460,000円
日本財団	港ワークキャンパス 車両整備	1,360,000円
ヤマト福祉財団	港ワークキャンパス 設備整備	819,000円

(2) 寄付に関する特記事項(順不同)

愛知県共同募金会 様	326,000円(各事業)
坂文種報徳会 様	500,000円(本部)
川地 鉦一 様	125,500円(明和寮)
中野 幸子 様	2,000,000円(明和寮)
名古屋眼鏡株式会社 様	128,467円(名古屋盲人情報文化センター)
中島 留宇子 様	100,000円(明和寮)
山盛 信吉 様	2,000,000円(港ワークキャンパス)
山盛 信吉 様	車両 スズキアルト(港ワークキャンパス)
遺言執行代理人弁護士 鈴木哲郎 様	100,000円(瀬古第一マザー園)
匿名希望 様	200,000円(戸田川グリーンヴィレッジ)
匿名希望 様	1,000,000円(法人・瀬古第二マザー園)
匿名希望 様	200,000円(戸田川グリーンヴィレッジ)
匿名希望 様	1,000,000円(名古屋盲人情報文化センター)
匿名希望 様	5,000,000円(名古屋盲人情報文化センター)
名古屋東山ロータリークラブ 様	150,000円(名古屋盲人情報文化センター)
立花 幹葆 様	車両 日産 ブルーバード シルフィ (戸田川グリーンヴィレッジ)

II 光和寮 拠点

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
就労移行支援事業	
生活介護事業	
施設入所支援	
福祉ホーム	『かわな』・『やすだ』
地域活動支援事業	『デイサービスセンタークリエイト川名』
障害者居宅介護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぽーと』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』

本年度は、定年退職による施設長の交代や課長の異動等があったものの、特に大きな修繕工事や事業拡張等はなく、利用者増による事業活性化と提供サービスの充実に努め、全体としてほぼ順調に推移した。

就労継続B型は、工賃向上計画に沿って工賃の底上げを行い、障害者優先調達推進法効果も期待しつつ売上活性化に努め、前年度収支を上回ることができた。就労移行事業では、利用稼働率の維持・安定のため、訓練カリキュラムの再検討、実習生の積極的な受け入れを行った。生活介護事業では生産活動を伴うサービスを試行的に行うなど、クリエイト川名と共に提供サービスの充実に努めた。ガイドネットあいさぽーとでは、月平均 300 時間の活動実績を達成した。光和障害者相談センターでは引き続き大量のケースに精力的に関わり、事業開始 2 年間で 387 名の契約者数に至った。

引き続きそれぞれの事業の課題を整理・改善し、利用者にとって、また地域における包括的な障害者支援体制の中で重要な社会資源となるべく努めていく。

1 就労継続支援事業 B 型 『光和寮』

本年度は、新たな仕事の開拓や利用者の働きやすい作業環境づくりを進めた。

部品加工科は、作業面の効率化を図るために様々な治具を制作し、作業効率が向上した。消費税のアップもあり、駆け込み需要等で受注が集中し、作業が過剰気味になることがあった。現状の作業内容や作業場環境など、課題の残る 1 年となった。

利用者の確保については、新しい治具の開発や部品加工科と技能開発科の機能を比較検討してもらいなど、幅広いニーズに応えることで、新規利用者の確保に繋がった。

印刷科は、録音から印刷・発送までの一貫業務の受託を中心に営業活動し、録音速記から印刷へ、また逆のパターンで積極的に売り込みをかけたことにより、主に行政・大学関係での受注成果が出始めた。設備面では、2 色刷り両面印刷機のほか、オンデマンド機の複合した印刷製本など作業能力を向上させた印刷受注が増えた。外注費の圧縮のため、外注加工の一部であった折やミシン加工を内製化した。これにより、様々な障害のある方への作業創出へとつながる効果が出始めた。印刷業界のみならず、顧客先においても複合機の導入が更に進んでおり、激しい価格競争や単価下落など、

今後の営業方針の検討課題が明確となった。

治療部においては、上半期は昨年度に設置した新しい看板の効果と、6月に導入したポイントカードの効果で、予算はもちろん前年度同期を上回る成績を残せたが、下半期は主立った集客手段を打たなかったため最終的には予算を達成することができなかった。治療院のPR活動は効果を挙げつつあるため、引き続き広報活動を続けるとともに、新しいサービスの開発も検討していく。

本年度も各科新しい取り組みを行い、工賃の底上げも行うことができた。特に営業活動で顧客のニーズにマッチした提案を行い新たな仕事を取り込むことができた。

ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者 ()内は通所利用者			工賃 (年間総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
鍼灸治療科	6(5)	4(3)	10(8)	238,753	72,696	126,403
印刷科	6(5)	4(3)	10(8)	114,198	14,720	56,346
部品加工科	40(27)	16(10)	56(37)	78,809	6,265	21,504
計	52(37)	24(16)	76(53)	—	—	42,467

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

印刷科	冊子製本 年間 100 件 封筒印刷 年間 100 件 名刺印刷 年間 150 件 録音速記 年間 100 件
治療部	年間の来院数 5,000 人 年間の新規来院数 110 名 1 顧客あたりの平均単価 3500 円
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け作業 3245238 個 パイプ洗浄剤検品作業 54000 個 タオル袋詰め作業 417913 個 アメニティグッズセットアップ作業 72553 個 キッチン取手インサート作業 75339 個 壁掛 TV 金具検品作業 2578 個

ウ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	53	9	10	52	80
女	24	2	2	24	
計	77	11	12	76	

エ 障害別状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
33	30	1	18	1	0	76(7)

() 内は重複障害再掲

オ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
21	2	22	24	6	1	0	76

カ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
3	7	14	16	18	18	76	46.8 歳

キ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者 数(名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
80	4	22	1,579	71.8	89.7%
	5	22	1,589	72.2	90.3%
	6	21	1,549	73.8	92.2%
	7	22	1,617	73.5	91.9%
	8	20	1,432	71.6	89.5%
	9	21	1,480	70.5	88.1%
	10	22	1,604	72.9	92.3%
	11	22	1,558	70.8	88.5%
	12	20	1,432	71.6	89.5%
	1	20	1,388	69.4	86.8%
	2	20	1,392	69.6	87.0%
	3	22	1,539	70.0	87.4%
	計		254	18,159	71.5

2 就労移行支援事業『光和寮』名古屋東ジョブトレーニングセンター

本年度は、目標である二桁の就職者は達成できたが、年度初期に就職者を多数輩出したことにより、年間を通して訓練生不足が続き、運営収支面では予算を大きく下回る結果となった。

年度途中の新規訓練生の獲得は今後も大きな課題となる。今年度は養護学校からの実習生を約 100 名受け入れており、当センターの認知度も高まった。今後は実習のリピーターが利用につながる流れを確立できるよう、訓練・支援内容の充実を図る等、選ばれる事業所づくりに努めていく。

また、目標のひとつでもあった職場定着については、今年度就職者の中から 2 名の離職者が出てしまった。就職後の定着支援だけでなく、就労するまでの訓練時アセスメントや企業アセスメントをさらに強化し、今後の継続就労の安定を図る。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	11	13	11	13	18
女	4	2	4	2	
計	15	15	15	15	

イ 退所後の進路

一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
8	1	2	2	13

ウ 障害別状況（平成26年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
0	0	0	14	2(重複1)	0	15

エ 障害程度区分（平成26年3月31日現在）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
10	0	3	2	0	0	0	15

オ 年齢構成（平成26年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
8	6	1	0	0	0	15	20.8歳

カ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18	4	22	245	11.0	61%
	5	22	209	9.5	52%
	6	21	194	9.2	51%
	7	22	217	9.8	54%
	8	20	204	10.2	57%
	9	21	225	10.7	59%
	10	22	255	11.5	63%
	11	22	219	9.9	55%
	12	20	183	9.1	50%
	1	20	191	9.5	52%
	2	20	196	9.8	54%
	3	22	264	12.0	66%
		計	254	2602	10.2

3 生活介護事業『光和寮』

本年度の取り組みとして、利用者が将来ステップアップできる形を作るために作業

訓練を行ってきた。これが功を奏してか、平均利用率が昨年度の72.5%から、今年度は75.6%と、少しずつではあるが向上してきている。

次年度は、作業を希望して生活介護を利用する養護学校卒業生が2名決定している。作業を充実させていくとともに、障害特性に応じた活動も充実させ、利用者の確保にも繋げていく。また職員の資質向上を目指していく。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度登録者	本年度解除者	期末在籍者	定員
男	16	3	2	17	20/日
女	10	1	2	9	
計	26	4	4	26	

イ 障害別状況（平成26年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
10	13	4	8	1	0	26(10)

()内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分（平成26年3月31日現在）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	4	5	5	5	7	26

エ 年齢構成（平成26年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
2	6	2	2	9	5	26	47.9歳

オ 利用状況

定員(名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用率
20	4	21	317	15.0	75.4%
	5	21	321	15.2	76.4%
	6	20	303	15.1	75.7%
	7	22	325	14.7	73.8%
	8	18	266	14.7	73.8%
	9	18	260	14.4	72.2%
	10	21	310	14.7	73.8%
	11	20	288	14.4	72.0%
	12	19	291	15.3	76.5%
	1	18	284	15.7	78.8%
	2	18	285	15.8	79.1%
	3	20	323	16.1	80.7%
	計		236	3,573	15.1

カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	144名
音楽講師	76名
マッサージ	12名

4 施設入所支援『光和寮』

(1) 生活支援

本年度は、利用者の個別状況や安全と安心を最優先とする支援を行い、居室内の環境整備、社会資源の情報提供を行った。退所者は0名、入所者は2名で、いずれの方も就労継続支援事業B型を利用されている。就労移行支援事業を利用されていた1名も就労継続B型に移行した。体験利用者は4名であった。

体験利用者の内、1名が利用へと繋がった。地域移行への話として福祉ホームなどへの変更希望も聞き取りを行い、地域への自立に向けた相談、支援を行った。

設備面では、修繕等の頻度が多くなってきたため、随時対応して修理、交換を実施。居室内のエアコン、照明器具の交換も行った。

(2) 給食及び栄養指導について

本年度も、豪華な食事の「特別メニュー」に加え、利用者に季節感を味わっていただくため、旬の食材を使用した「行事食」を提供した。また月に一度、栄養便りを発行し、そのテーマに関連した献立を提供することで、食と栄養に関心をもってもらえるように努めた。

昨年度から、栄養マネジメントと個別支援計画の統一化を行ったため、本年度も生活支援員・看護師・栄養士で生活面の連携を図り利用者支援を行うことができた。月に1回の体重測定や食事記録など、個別に栄養指導を行い、利用者の健康状態の維持、向上に努めた。

(3) 防災と安全確保について

本年度も、利用者が自ら缶詰やレトルト食品の開封体験をし、利用者にも自分で身を守る意識づけを行った。

また、『どの職員でも食事を提供できるように』を目標に、就労日の土曜日に炊き出し訓練を行い、多くの職員が参加して実践的な訓練を行った。

(4) 地域生活移行推進に向けて

利用者のニーズに合わせた生活支援を行い地域移行に必要な情報提供を行った。

福祉ホーム『かわな』で体験利用をしていただき、利用者の自信に繋がる支援を行った。次年度も引き続き必要な情報を提供し、利用者支援を行う。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	13	1	0	14	32
女	8	1	0	9	
計	21	2	0	23	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
11	9	1	6	1	0	23 (5)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	1	7	12	2	1	0	23

エ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	2	3	6	10	2	23	48.4 歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
夏まつり	43 名
地域交流フェスティバル	25 名
メイクサロン	3 名
メガネ メンテナンス	2 名
クリスマス会	5 名
新年鍋パーティー	5 名

5 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1) かわな

本年度の退所者は県営住宅への入居が 1 名、高齢のため盲養護施設に転所した 1 名の計 2 名であった。新規入居者は、行き先がなく緊急性の高い重度者 1 名であった。

長期居住者の地域移行は進まなかった。市営住宅と県営住宅の申し込みは継続しているが、競争率は高く、公営住宅への転居は厳しい状況である。

設備面では給湯器の交換を中心に行い、扉部分の修理も 3 部屋行った。次年度も給湯器の交換と IHコンロの更新、居室の扉の修理や談話室のエアコンの交換など、計画的に進める。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	9	1	2	8	15
女	3	0	0	3	
計	12	1	2	11	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
2	8	1	0	0	0	11

ウ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
8	0	1	0	1	1	0	11

エ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	0	1	3	7	11	59.6 歳

(2) やすだ

本年度の入・退所者は、いずれも 0 名であった。福祉ホームに移行して 4 年となり、利用者の契約更新を行った。現在 6 名の方がヘルパーを利用しながら生活している。

利用者の高齢化が進んでいる。対象の方が、退所後の住まいをイメージできるよう他施設の見学会（家族の方も参加）を実施した。

設備面では、故障したエアコンを随時交換し、蛍光灯設備の交換、居室扉の修理を行った。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	7	0	0	7	11
女	3	0	0	3	
計	10	0	0	10	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
4	6	0	0	0	0	10

ウ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
1	0	4	4	1	0	0	10

エ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	1	2	1	2	4	10	49.0 歳

6 地域活動支援事業『デイサービスセンタークリエイト川名』

本年度は、利用率が80%を超える月がほとんどで、90%を上回ることもあった。新規利用者も加わり、利用登録者数が52名となったことや利用曜日を増やす方もいたことで利用率向上につながった。さらに特別外出企画や講師を招いての活動は、できるだけニーズを反映させながら提供できている点も利用増に結びついたと思われる。

次年度もニーズに即した活動を提供し、利用者一人一人にきめ細かなサービスが提供できることを目標にしたい。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	20	0	3	17	19/日
女	28	7	0	35	
計	48	7	3	52	

イ 障害別状況（平成26年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
51	0	0	(1)	1	0	52(2)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（平成26年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	2	3	5	7	35	52	61.5歳

エ 利用状況

定員(名)	月	実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用率
19	4	21	325	15.4	81.4%
	5	21	345	16.1	86.0%
	6	21	328	15.6	82.2%
	7	23	367	15.9	83.9%
	8	19	309	16.2	85.5%
	9	19	289	15.2	80.0%
	10	22	341	15.5	81.5%
	11	21	322	15.3	80.7%
	12	20	354	17.7	93.0%
	1	19	315	16.5	87.0%
	2	19	289	15.2	80.0%
	3	21	306	14.5	76.6%
	計		246	3890	15.8

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	149名
外出ボランティア	13名
陶芸	19名
音楽講師	12名
体操講師	40名

7 障害者居宅介護・移動支援事業『ガイドネットあいさぽーと』

本年度は、新規ヘルパー3名の確保ができた。利用日については土日祝日の利用について個々に広報するが、平日の活動希望が多く、活動調整が難しく、利用者に日程や時間変更をお願いすることもあった。

次年度においてもヘルパーの確保に努め、利用者の急な活動依頼や新規の依頼など、利用者のニーズに対応できる体制づくりをしていく。

ア 障害別状況（平成26年3月31日現在登録者）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
52	0	0	5	0	1	54(4)

() 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（平成26年3月31日現在登録者）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
5	7	24	16	1	1	0	54

ウ 年齢構成（平成26年3月31日現在登録者）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
2	2	3	8	2	37	54	63.7歳

エ 活動実績時間数

	平成24年度	平成25年度
移動支援（月平均）	45.0時間	7.3時間
同行援護（月平均）	288.0時間	298.0時間

8 相談支援事業『光和障害者相談センター』

事業開始2年目となり、当事業の役割や存在が関係機関に認知、定着してきたためか、計画相談の契約件数が、年度末には387件となった。

最近では、困難なケースを相談されることもあり、1件1件のケースを基に相談業務の質の向上を図っている。

次年度は、計画相談を基に、地域移行支援や地域定着支援など地域のニーズを拾い

上げ、幅広く対応できる事業所を目指す。これまで同様、関係機関との協力関係を築き、複数機関で個々のケースの課題が解決できるような仕組みを作っていく。

ア 計画相談状況

月	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
4	25	55	50
5	15	39	53
6	26	20	65
7	15	21	57
8	11	17	44
9	3	28	68
10	6	25	53
11	10	26	43
12	12	25	39
1	6	49	39
2	14	37	51
3	13	25	47
計	156	367	609

Ⅲ 明和寮 拠点

多機能型事業所	『明和寮』
就労継続支援事業B型	ビーサポート
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』
障害者居宅介護・移動支援事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
放課後等デイサービス	『わくわくキッズ』
相談支援事業	『港区障害者地域生活支援センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

本拠点の各事業は、想定外の大きな落ち込みもなくおおむね良好に推移した。一方、好調を維持している生活介護事業や放課後等デイサービス、あるいは就労移行支援事業において、その活動スペースの狭さや立地条件が事業進展の妨げとなっており、その解決が新たな課題となっている。

また、これまでの「港区障害者地域生活支援センター」は本年度末で廃止され、平成 26 年度からは「港区障害者基幹相談支援センター」として、特定非営利活動法人「まちかどサポートセンター」と共同運営（コンソーシアム）していくこととなった。

明和寮拠点の「3ヶ年計画」については、2年目としてサービス供給体制の見直し・人員体制の強化・研修会への積極的参加等、拠点の組織力向上や人材育成に取り組んできた。手応えはあるものの際立った成果には至っておらず、次年度も新しい人事考課制度を活用しつつ引き続き取り組んでいく。

施設整備については、正面ゲート・ストックヤードの改修工事、浴槽タイルの張替工事、作業棟（B棟 2階）空調設備の更新等を実施したが、建物・設備は築後 30年以上経過し老朽化が目立ってきているため、前述の活動スペースの課題を含め将来像の具体的プラン作りが課題となっている。

1 就労継続支援事業B型『明和寮 ビーサポート』

本年度は、利用者工賃に大きく関わる各科予算達成を目標に取り組んできたが、厳しい状況の中でなんとか達成することができた。

印刷科では、定期的に受けていた大口物件が見積もり合わせになるなど受注が厳しい状況で苦戦を強いられる面もあったが、積極的な営業活動により結果的には増収で終わることができた。また、時代のニーズに対応するため、即売会への積極的な参加、幅広い利用者の受け入れ等、印刷科が新たな展開を進める年度にもなった。組立加工科では、作業の中心が熱圧着ブリスター作業から、バネ・金物関係の企業からの多品

種小ロットの軽作業にシフトしてきたため、単価・納期・品質等の管理に課題が残った。自動車部品科でも、終了するアイテムをカバーするため新規アイテムの獲得や既存アイテムの受注数増で売上確保をしているが、利用者の日常生活やメンタルの支援と生産活動との両立に苦慮している。包装加工科では、取引先の要望に応じて受注対応した点や増税の駆け込み需要などで大きく売上を伸ばすことができた。社会貢献科は、自販機事業を柱に活動を続けているが利用者の作業確保が課題となっている。

本年度のもうひとつの取り組みとして積極的に見学会を開催した。デジタルツールの利用によるわかりやすい説明や作業体験を加える等、見学会の内容をリニューアルした結果、新卒の利用予定者が5名確保できるなど実績につなげることができた。次年度以降も継続して行い、利用者確保につなげていきたい。

ア 賃金支払状況

事業	性別			工賃(年間総支給額÷12)		
	男	女	計	最高	最低	平均
印刷事業	6	3	9	124,242	26,320	65,527
組立事業	24	6	30	96,348	20,592	42,233
自動車部品事業	41	11	52	76,569	18,717	45,446
包装加工事業	13	1	14	120,902	33,884	68,433
社会貢献事業	1	1	2	106,131	24,482	65,307
計	85	22	107	—	—	49,497

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

印刷科	冊子、チラシ、封筒、名刺など編集・印刷作業 8,168,893 部
組立加工科	テープカセットプリスター圧着作業 138,246 個 キッチン取手インサートナット加工及び組付け 231,713 個 スプリングプレート検査 2,070,312 個
自動車部品科	ケースフィルター組付け 1,755,000 個 クーラントシール貼り、梱包作業 212,580 個 点火プラグマスキング作業 2,526,541 個 フロントグリルのエンブレムなど組付け作業 32,532 個 ドアミラーマスキング作業 152,250 個 ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 773,960 セット マイ箸セットアップ作業 210,000 個
包装加工科	プラスチック真空成型加工のみ 真空成型加工及びスライドプリスター（折り曲げ）加工 スライドプリスター（折り曲げ）加工のみ 合計 4,661,260 個
社会貢献科	自販機設置協力事業所 35 社 設置台数 48 台 ブログ更新 46 回

ウ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	82	7	4	85	100
女	20	2	0	22	
合計	102	9	4	107	

エ 障害別状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
19	63	0	32	11	0	107(18)

() 内は重複障害再掲

オ 障害程度区分 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
29	4	26	34	9	4	1	107

カ 年齢構成 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
6	5	13	26	26	31	107	49.7 歳

キ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1 日平均利用者 数(名)	利用率
100	4	22	1,991	90.50	90.5%
	5	22	1,985	90.23	90.2%
	6	22	1,913	86.95	87.0%
	7	22	1,981	90.05	90.1%
	8	20	1,780	89.00	89.0%
	9	20	1,803	90.15	90.1%
	10	22	1,936	88.00	88.0%
	11	22	1,887	85.77	85.8%
	12	20	1,712	85.60	85.6%
	1	20	1,785	89.25	89.3 %
	2	20	1,748	87.40	87.4%
	3	22	1,958	89.00	89.0%
	計		254	22,479	88.50

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	88	ライトハウス福祉まつり、納涼祭 ボランティア協力食事会
頭髪カット	2	
クラブ活動支援	88	詩吟、卓球、将棋、陶芸、切り絵、手芸、スケッチ

2 就労移行支援事業『明和寮 港ジョブトレーニングセンター』

本年度は、実績を維持しながらより魅力的な事業所のあり方を探求する1年となった。具体的には、近年の雇用動向や利用者層、利用ニーズの変化に対応すべくサービスの充実を図った。技能プログラムは40を超え、新たなプログラムも試行し、より実践的なプログラムの有効性も確認できた。

また、利用者目線で安心して通っていただける仕掛けも複数導入し、嬉しい反応をいただいている。結果として就職実績を維持するとともに1年を通して安定した利用率を出すことができ、3月から定員を増やす運びとなった。“集まる”事業所となったのは、しくみを整えるとともに職員が個々の役割を果たしながらもチームの利益を考えて行動した結果である。

多くの事業所にとって課題である定着支援についても、当方は年間の支援量が年々増加することはない。これは、ジョブコーチ支援における初期のマッチングとフェイディング、ナチュラルサポート形成等のスキルが向上している証である。

全国の取り組みについて情報収集したが、全国的に見ても我々の実践が劣っていないことがわかった。収集した情報やこれまでの実績を踏まえて新拠点でのイメージができた。その実現に向けて日々の支援や準備に引き続き真摯に取り組んでいきたい。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	11	28	17	22	15 (※18)
女	3	9	8	4	
計	14	37	25	26	

※平成26年3月より定員変更

イ 退所後の進路

一般企業	就労継続A型	就労継続B型	利用期間満了	利用中止	合計
7	8	※10	0	0	25

※卒後B型利用希望在学生の支給決定によるもの

ウ 障害別状況 (平成26年3月31日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
0	4	2	18	4	0	26 (2)

() 内は重複障害再掲

エ 障害程度区分 (平成26年3月31日現在)

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
23	0	2	1	0	0	0	26

オ 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
4	16	1	3	2	0	26	26.6歳

カ 利用状況

定員(名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
15	4	22	343	15.59	103.9%
	5	22	338	15.36	102.4%
	6	20	287	14.35	95.6%
	7	22	347	15.77	105.1%
	8	20	310	15.5	103.3%
	9	20	316	15.8	105.3%
	10	22	347	15.7	104.6%
	11	21	352	16.76	111.7%
	12	20	323	16.15	107.6%
	1	20	319	15.95	106.3%
	2	20	317	15.85	105.6%
18 (※1)	3	22	404	18.36	102.0%
15.25 (※2)	計	251	4003	15.94	104.5%

※1 平成26年3月より定員変更

※2 年度平均は定員の平均値にて算出（(15人×11ヶ月+18人) / 12ヶ月）

3 生活介護事業『明和寮 ふちとまと』

本年度は利用者の満足度向上を目指し、快適な室内環境と日中活動の充実という2つの目標に向かって活動した。室内環境については、流し台の改装と洗面台の増設、食器収納の買い替えを行った。白を基調に水周り全体をコーディネートすることにより清潔感のある空間となった。また、洗面台増設により、利用者が室内で歯磨きや手洗いができるようになるなど、利便性を向上させることができた。

日中活動については、レクリエーションの充実に重点をおき、職員一人ひとりが責任を持つことによって、新しいレクリエーションの開拓や既存レクリエーションのバージョンアップに繋がり、活気に溢れた活動にすることができた。また、改めて利用者の特性を見直し、理解する良い機会となり、利用者に向き合おうとする意識も高めることができた。

活動スペースや定員の問題から新規利用の希望に沿うことが難しい状態が続いているが、なんとかスペース確保の打開策を見つけ、少しでも多くの方に質の高いサービスを提供できるよう努力していきたい。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	14	1	1	14	10
女	15	0	2	13	
計	29	1	3	27	

イ 障害別状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
4	20	0	12	3	0	27 (12)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	0	4	2	5	16	27

エ 年齢構成 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	11	6	3	1	6	27	38.7 歳

オ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
10	4	21	230	10.9	109%
	5	22	235	10.6	106%
	6	19	209	11.0	110%
	7	22	242	11.0	110%
	8	19	196	10.3	103%
	9	19	207	10.8	108%
	10	22	246	11.1	111%
	11	21	242	11.5	115%
	12	19	214	11.2	112%
	1	19	223	11.7	117%
	2	19	203	10.6	106%
	3	20	213	10.6	106%
	計		242	2,660	10.9

4 福祉ホーム『あかり』『黎明荘』

本年度は「あかり」から「黎明荘」に移行した方が 1 名、障害の重度化にともない、「あかり」から退去した方が 1 名という動きにとどまった。長期利用者が多い中で障害の重度化、高齢化が継続した課題となっている。

設備面では「あかり」の 2 室、「黎明荘」の 1 室を改修したが全体的に老朽化が進

んでおり、今後も継続して改修を進めなくてはならない。

ア 入退所状況（あかり）

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	30	0	2	28	40
女	9	0	0	9	
合計	39	0	2	37	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
8	29	0	7	2	0	37 (9)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
4	1	10	13	5	3	1	37

エ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	3	8	12	14	37	55.4 歳

ア 入退所状況（黎明荘）

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	3	1	0	4	10
女	1	0	0	1	
合計	4	1	0	5	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
1	4	0	0	0	0	5

() 内は重複障害再掲

ウ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	1	1	3	0	0	5

エ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	1	1	3	0	5	50.6 歳

5 相談支援事業『明和障害者相談センター』

相談センターが立ち上がって 2 年目となるが、昨年度後半に引き続き、港区とその近郊を中心に 3 障害(身体、知的、精神)の方のサービス等利用計画の作成や一般相談

を港区内の事業所ではトップクラスの件数で引き受けている。

平成 26 年度から障害児の計画相談が本格的に始まるが、初めての領域となり相談員の知識が少ないことから、実績を積む中でスキルアップを図っていきたい。

ア 相談状況

月	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
4	18	30	29
5	16	17	39
6	16	18	37
7	13	22	38
8	13	24	30
9	11	18	44
10	10	25	38
11	10	26	35
12	8	27	39
1	7	39	34
2	9	34	39
3	5	22	44
計	136	302	446

6 障害者居宅介護・移動支援事業『みなとガイドネット』

今年度は利用者の障害程度区分変更、介護保険の年齢に達した方の利用時間の変更、身体状況の変化により利用時間数の変更があった方等が重なり、活動実績が月あたり約 100 時間減ることとなった。安定した運営を目指して事務所体制を整える年と位置づけたが活動や事務処理に追われ新たな手立てを打つことができなかった。年度末から 1 名の常勤ヘルパーを採用したため勤務状況が落ち着くの見計らい、緊急受診等にも対応できるよう事務所に職員 1 名が残れる体制を次年度は整えていきたい。

課題となっている登録ヘルパーの高齢化については、新規登録ヘルパーの募集に力を入れ、若干ではあるが活動できるヘルパーが増えた。しかし多様な障害特性に対応するには社外・社内の研修を充実させる必要を感じている。

昨年から取り組んでいるコーディネートミスをなくす対策も浸透し始めミスのない月も増えてきており安心・安全で安定した活動ができてきている。

ア 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在登録者）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	視覚児童	その他	合計
29	32	0	5	1	0	67

イ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在登録者）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
6	1	17	20	6	8	9	67

ウ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在登録者）

10代	20・30代	40代	50代	60代	70代以上	計	平均年齢
6	3	11	15	20	12	67	55.4 歳

エ 活動実績時間数

	平成 24 年度	平成 25 年度
重度訪問介護（月平均）	409.5 時間	328.3 時間
移動支援（月平均）	70.8 時間	59.4 時間
居宅介護（月平均）	144.8 時間	125.1 時間
同行援護（月平均）	520.5 時間	526.0 時間

7 地域活動支援事業『地域活動支援センター あちえつとほーむ』

本年度は、利用者ニーズへの対応として定例会議にて新規利用者・既存利用者の活動内容を職員間で共有し、支援方法の検討を行なった。利用者が活動を通して人・物・行政・地域につながることを意識した支援を実施した結果、各々が次のステップへのきっかけ作りができた点が大きな収穫であった。また、社会の動きに応じる中で精神障害の利用希望にも柔軟に対応することができた。

しかし登録者増から定員を超える利用日が増え始め、新規利用希望や既存の利用者の追加利用希望に対する対応が難しくなっている。そんな中ではあるが新たな動きとして、難病指定を持った方の受け入れを事業として申請した。

今後も利用者ニーズを主とした講座の立案やボランティア等の外部と連携を強化し、ニーズに沿った柔軟な事業展開を目指していく。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	62	4	0	66	19/日
女	49	0	0	49	
合計	111	4	0	115	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
14	68	6	26	11	0	115(10)

（ ）内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	6	22	21	18	48	115	54.4

エ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均利用 者数(名)	利用率
19	4	22	400	18.2	95.8%
	5	23	401	17.4	91.6%
	6	21	340	16.2	85.3%
	7	24	417	17.4	91.6%
	8	20	319	16.0	84.2%
	9	21	383	18.2	95.8%
	10	24	405	16.9	88.9%
	11	22	432	18.8	98.9%
	12	20	358	17.9	94.2%
	1	21	378	17.5	92.1%
	2	21	351	16.7	87.9%
	3	22	392	17.8	93.7%
	計	263	4576	17.4	91.7%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
講師	98	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳
パソコン	590	
活動	241	
イベント支援	31	福祉祭り、交流フェスタ、外出訓練

8 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

みなし期間が終了し本格的に放課後等デイサービスとしてスタートをきった本年は、昨年増員した職員2名により大きく支援の幅を拡げることができた。

夏休み期間中の終日営業も昨年に引き続いて実施し、イレギュラーでの参加も好評で家族のニーズに応えることができたと感じている。また、高校生ボランティアも例年多く参加してもらえる中で、より充実した活動を行うことができた。

今後は更に支援を充実させるために、安全面に注意をはらいながら新たな活動にもチャレンジしていく。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度登録者	本年度解除者	期末在籍者	定員
男	24	5	1	28	10/日
女	12	1	1	12	
合計	36	6	2	40	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
0	14	2	24	0	0	40(14)

（ ）内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数：合計 40 名

港養護	南養護	港楽小	大手小	稲永小	正保小	東築地小	当知小	高木小	中学校
15 名	4 名	5 名	2 名	4 名	2 名	3 名	1 名	1 名	3 名

エ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
10	4	22	258	11.7	117%
	5	22	269	12.2	122%
	6	20	237	11.8	118%
	7	23	264	11.5	115%
	8	19	206	10.8	108%
	9	20	230	11.5	115%
	10	23	254	11.6	116%
	11	21	246	11.7	117%
	12	20	223	11.2	112%
	1	20	229	11.4	114%
	2	20	236	11.8	118%
	3	21	233	11.0	110%
		計	251	2885	11.5

オ ボランティア・講師活動状況

木曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	女性 1 名
金曜日	(講師として) キッドボックス(月 2 回)	女性 1 名
水曜日	(講師として) 音楽療法(月 2 回)	女性 2 名
月 1 回	人形を使って、一緒に歌う	男性 1 名
年間で	ツアー・各月の行事参加	男女含む 5~10 名

9 相談支援事業『港区障害者地域生活支援センター』

相談者数は年間で 307 人（内訳は、身体障害者(児)36%、知的障害者(児)46%、重症心身障害者(児)3%、精神・発達・高次脳機能障害者(児)13%、難病患者 2%。また、障害者は 82%、障害児は 18%。）、新規の相談者は 125 人であった。

名古屋市では昨年度から開始したサービス等利用計画が定着してきたことで、日常的な基本相談も特定相談事業者が対応できることとなり、当センターへの相談内

容としては、相談支援事業所や関係機関からの対応困難ケース等への対応が増えつつある。

本年度は障害者総合支援法が施行され、制度の谷間を埋めるべく障害者の定義に難病等も加わることとなり、難病患者の障害福祉サービス申請窓口である保健所との連携が重要となった。

港区障害者自立支援協議会は、定例会を3回（5月、9月、2月）、就労部会、研修部会(港区全体を対象に障害理解を深める研修会を12月に開催)、個別ケース検討部会を計画通り開催することができた。

平成26年度にスタートとなる障害者基幹相談支援センター開設にあたり、精神障害を含めた相談支援や精神障害者地域活動支援センターの運営ができるよう、港区内で精神障害者への支援実績のある「NPO法人まちかどサポートセンター」とのコンソーシアムで応募し、選定委員会を経て運営委託を受けることとなった。次年度から障害者基幹相談支援センターとして利用者、地域から求められる中核的な相談支援の機関となるよう自立支援協議会の機能強化、地域の関係機関との連携強化に向けて引き続き取り組んでいく。

ア 相談実績件数

月	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
4	65 (1)	175 (0)	2	240 (1)
5	66 (1)	177 (0)	6	243 (1)
6	100 (1)	178 (0)	3	278 (1)
7	85 (1)	159 (0)	1	244 (1)
8	96 (1)	163 (0)	3	259 (1)
9	71 (1)	135 (0)	2	206 (1)
10	61 (1)	154 (0)	2	215 (1)
11	56 (1)	149 (0)	1	205 (1)
12	62 (1)	149 (1)	5	211 (2)
1	45 (1)	136 (0)	1	181 (1)
2	61 (1)	167 (0)	3	228 (1)
3	72 (1)	192 (0)	2	264 (1)
合計	837 (0)	1934 (0)	31	2771 (1)

※（ ）内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲（ピアフラワー講座含む）

平成25年4月～26年3月までの月平均相談実績件数

訪問相談 70件 外来相談 161件 協議会等の開催 2.5回

外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は10分以上の相談をカウント。

イ 計画相談実績件数

月	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
4		2	14
5			12
6	1		13
7	4	6	13
8	1	1	14
9			15
10	1	1	13
11	1	1	9
12	1	1	7
1	1	5	8
2			8
3	5	1	10
計	15	18	136

10 障害者就業・生活支援センター事業

『海部障害者就業・生活支援センター』

現在、3名のコーディネーターにより支援対象者が274名となっている。相談及び支援の件数は年間2,200件を超えており、特に電話やメールを活用した相談が増えている。このことから職員の時間外対応が増えており課題となってきている。

支援対象者からの相談件数だけでなく、昨年4月の「障害者雇用率2.0%」への引き上げも影響し、企業からの問い合わせ件数も増えている。求人案件に該当する方に、他の支援機関と共に支援にあたるケースも増えており、海部圏域を中心に障害者就業のコーディネート業務を担うことができつつあると感じられる年度となった。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別) (件)

センターへの来所 (本人のほか、家族等も含む)	297
電話・Fax・E-mail (本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む)	1,488
職場訪問 (定着支援のほか、職場実習支援を含む)	236
家庭・入所施設への訪問	8
その他 (ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	248
合計	2,277

※「その他」の具体的な支援内容

ハローワークへの同行(登録支援、求人検索、失業保険申請手続き etc)、受給者証手続き、履歴書作成、事業所見学、年金相談、手帳取得、自己破産など

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別)

(件)

	身体 障害	知的 障害	精神 障害	その他				合計
				発達 障害	難病	高次 脳機 能障 害	その 他	
就職に向けた相 談・支援	179	285	265	85	28	22	2	866
職場定着に向けた 相談・支援	15	424	143	102	0	43	10	737
日常生活、社会生活 に関する相談・支援	7	117	47	16	0	11	1	199
就業と生活の両方 にわたる相談・支援	9	113	50	21	2	16	5	216
その他	13	74	99	37	6	27	3	259
合計	223	1,013	604	261	36	119	21	2,277

IV 港ワークキャンパス 拠点

多機能型事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター
福祉ホーム	『みなと』
相談支援事業	『港ワーク障害者相談センター』

本年度の就労事業は、景気に左右され受発注量が安定しないという実態はあったものの、売上は昨年を上回る実績で着地することができた。金属工場では、取引先の短納期要望に応えるため生産工程の柔軟な組み替えや生産の効率化を図った。また、安定した品質を維持するために新しい機械の導入や機器メンテナンス、作業者の教育等を行い、取引先からの信頼を更に得ることができた。

また、新しい仕事の確保や新卒の利用者を採用するため、地域の団体や養護学校関係、企業等の見学や実習を積極的に受け入れ、関係機関とのパイプをより太くすることができた1年であった。

1 就労継続支援事業A型『港ワークキャンパス ライトハウス名古屋金属工場』

<金属工場>

非常に厳しい1年であった。上期は大口取引先の不振もあり、出荷数量、売上ともに前年度割れが続き、作業量を補うべき施策に翻弄された。下期に入ってから、取引先最大手との商流において商社経由だったものが、全て直接取引となり利益増となった。第四四半期には、東京エリアを中心とした建築着工が急速に進んだことにより、通年で出荷数量、売上ともに前年を上回る形で着地はしたものの隙間を埋めるべき下請け作業確保といった課題は常に突きつけられている状況である。

また、昨年度から企画・進行していた新規ブリキ缶が、3月に無事に初回出荷を済ませており、現在量産に突入している。

工場内においては、昨年度取り組んだ材料費、不良率、段取り時間の低減で、ある程度の標準化を達成することができた。しかし、製品安定の供給に向け、意識向上、作業能力向上、管理能力向上、労働環境改善、設備投入など、課題は多く残っている。

<乾燥蒟蒻加工事業>

就労継続支援事業A型の事業として、乾燥蒟蒻事業に特化し採算性の改善を試みたが結果は思わしくなく、H24年度を下回る結果となった。発注元における事業計画性、またその実行力では当施設での事業継続は不可と判断せざるを得ない状況である。第二工場の新たな活用方法を早期に見つけ、事業の切り替えが急務となっている。

ア 賃金支払状況

科目	在籍者			工賃（総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
就労継続 支援 A 型	65	4	69	166,936	58,508	106,759

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

金属加工事業	ブリキ缶製造 : 149 万 8,533 缶出荷
食品加工事業	乾燥コンニャク作業 : 13,080kg
下請作業	カレー粉・スープの素等軽量封入作業 : 22,000 個 解体作業 : 34 t セットアップ作業 : 24,000 個
SELP 委託事業	金山駅即売会主幹業務を毎月 3 日間開催 販売売上 : 月平均 180 万

ウ 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	60	7	2	65	60
女	3	1	0	4	
計	63	8	2	69	

エ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
6	27	2	29	5	4	69(4)

() 内は重複障害再掲

オ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
53	6	8	2	0	0	0	69

カ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計	平均年齢
5	9	15	11	21	8	69	42.1 歳

キ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
60	4	22	1419	64.5	107.5%
	5	22	1417	64.4	107.3%
	6	22	1357	61.7	102.8%
	7	22	1404	63.8	106.4%
	8	20	1214	60.7	101.2%
	9	20	1226	61.3	102.2%
	10	22	1349	61.3	102.2%
	11	22	1313	59.7	99.5%
	12	20	1211	60.6	100.9%
	1	20	1184	59.2	98.7%
	2	20	1208	60.4	100.7%
	3	22	1345	61.1	101.9%
	計	254	15647	61.6	102.7%

2 就労継続支援事業B型『港ワークキャンパス KAN 食品開発センター』

今年度の売上状況と取引先動向から、「パンですよ！」が全国に浸透しつつあると実感している。主要都市の防災備蓄、公共交通機関組織、国の主管・関連施設に加え、一般企業からの要望も高まり、防災市場が着実に拡大している。

製造機器も受注数に合わせる形で大型化を進め、利用者に大きな負担を与えず増産体制が取れるようになり、前期を上回る 74 万缶を販売。売上も 1 億 6,400 万で着地した。

次年度に向けた準備としては、取引先へのリサーチを行い、あんこ味・抹茶あん味で試作をして秋頃には完成し、市場に出す予定で進めている。また、食缶をパッケージとして使ったオリジナル菓子缶も、ゆるキャラブーム（おかざえもん・黒田かんべい・さのまるくん）やアミューズメント（UFOキャッチャー）の食品製品への拡がりで需要が伸びてきており、それに関連する下請け作業も活性化してきている。

昨年オープンした「かんせい工房」は1周年を迎え、利用者も 12 名となり計画通りに進めてきた。今年度は作業内容を限定せず、広範囲にわたっての作業獲得を進めてきたが、次年度は骨格作業を確立させ、作業場の拡張も視野にパン缶に負けない施設への足がかりができればと考えている。

B型事業の利用者もかんせい工房を加え現在 35 名までの拡がりを見せている。養護学校・盲学校・地域の支援センター等からの実習や見学の問合せも多く、利用予備軍も控えているため、更なる努力をしていきたいと考えている。

ア 賃金支払状況

科目	在籍者			工賃（総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
就労継続支援B型	14	21	35	76,550	24,625	48,373

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

パンの缶詰 製造事業	販売缶数：740,000 缶（内製 712,000 缶、外注仕入 28,000 缶）
下請作業	菓子缶作業：30,000 缶 菓子袋詰め作業：200,000 個（パチンコ景品、自衛隊装備品等） カレーレトルト袋詰め作業：8,000 個 レトルト加工（どて煮等）：6,000 個 コンニャク加工：25,000 個 風船袋詰め作業：12,000 個

ウ 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	12	3	0	15	40
女	11	10	1	20	
計	23	13	1	35	

エ 障害別状況（平成26年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	計
4	5	2	18	5	1	35(9)

（ ）内は重複障害再掲

オ 障害程度区分（平成26年3月31日現在）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
22	1	5	5	2	0	0	35

カ 年齢構成（平成26年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
9	7	0	10	4	5	35	35.2 歳

キ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均利用者 数(名)	利用率
40	4	22	465	21.1	84.7%
	5	22	469	21.3	82.0%
	6	22	463	21.0	81.1%
	7	22	466	21.2	88.4%
	8	20	427	21.3	82.3%
	9	20	442	22.1	82.0%
	10	22	482	21.9	81.2%
	11	22	497	22.6	83.7%
	12	20	469	23.5	83.8%
	1	20	459	23.0	82.1%
	2	20	458	22.9	79.1%
	3	22	563	26.0	75.3%
	計	254	5660	22.3	81.9%

3 福祉ホーム『みなと』

昨年度から継続して地域行事の情報提供やプライバシーに配慮したサービス提供を心がけた。住居者からの要望に応えるために各居室でB S波を受信できるように整備した。

また、携帯電話の電波状況を良くするために Wi-Fi 設備機器をテスト導入し、好評であった。その他、これまでは宅配や届け物などの受け取りは個人任せであったが、本人の依頼があれば事務部で留守対応することを実施し、住居者からはサービスが良くなってきているとの声があがっている。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	18	1	0	19	20
女	1	0	1	0	
合計	19	1	1	19	

イ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
5	13	1	0	0	0	19

ウ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
11	1	3	3	0	1	0	19

エ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	2	2	3	5	6	19	49.3 歳

4 相談支援事業『港ワーク障害者相談センター』

2年目を迎えた相談支援事業では、受給者証の更新の方を中心にご本人からの直接の依頼、区役所や保健所・地域生活支援センター経由での依頼も増加してきている。

また、今年度は地域の相談のみならず、港ワークキャンパスをはじめ法人施設利用者の計画更新に伴い現場職員と連携して支援に当たるケースも増加した。

基本相談においては、強度行動障害があり意思の疎通がうまくいかないために家族への暴力が現れている等、緊急を要するものも出てきているが、港区内に限らず隣接する南・熱田・中川の各施設も既に定員に達しているため、必要な時にすぐに利用ができない状況も露見している。しかしながら、利用者からは相談支援の契約を結ぶことで制度や福祉サービス及び事業所に関する情報を得られ、相談しながら選択できることに対して「安心だ」との言葉を戴いている。引き続き地域の事業所との連携強化や業務効率化等を図り、自立支援協議会（個別ケース検討部会）における各相談支援事業所や行政との意見交換を活発に進めながら支援していく。

ア 計画相談状況

月	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
4	10	20	17
5	13	16	25
6	5	15	26
7	5	11	25
8	6	5	25
9	4	12	29
10	6	8	27
11	1	10	29
12	7	14	27
1	4	14	18
2	7	7	18
3	0	20	25
計	68	152	291

V 緑風 拠点

就労継続支援事業B型 『緑風』
相談支援事業 『りょくふう障害者相談センター』

開設3年目の本年度は、安定的な運営基盤の確立に向けて利用率を上げるよう、広報活動に重きを置いてきた。その結果、開設当初8名だった利用者も3年で37名にまで増加し、8月には利用定員を20名から40名に変更することができた。利用者の増加とともに収支も安定してきている。

また、地域あつての施設という視点を大切にし、情報発信のための外部掲示板の設置、週に1回の歩道清掃、地域商店街のお祭りへの参加、町内会へ向けたAED講習会の呼びかけ等をおこなってきた。

利用者支援面では、昼食を毎日2種類のメニューから選んでいただけるよう工夫をして利用者の嗜好性に応えることができた。これにより利用者の満足度も上がり、またアレルギー等の代替食を準備する必要もなくなり一石二鳥となった。

1 就労継続支援事業B型『緑風』

利用者は順調に増えているが、毎日利用される方ばかりではないので、年度末の時点での一日平均利用者数は28.6名と定員に対して71.5%となっている。

障がい種別も多様化しており、身体障がい以外の方も増加傾向にある。他法人の日中活動（生活介護や精神デイケア等）を利用されている方も増えており、週に2～3日の利用や半日だけの利用など、多様な就労パターンがみられる。今後もそれぞれの生活スタイルを尊重し、「あなたらしい就労の場」を提供する。

作業については、「清掃用品の組立加工」「DM用チラシ作業」「洗濯物の畳み作業」等、従来からの作業も利用者の増加に合わせて順調に増えている。しかし、利用者像の多様化に比例して作業への意欲も個人差が大きく、利用者人数の増加がそのまま全体の作業能力増加につながっているとは言えず、就労支援面、売上面での課題は多い。

ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者			工賃（年間総支給額÷12）		
	男	女	計	最高	最低	平均
軽作業科	32	5	37	24,664	446	7,657

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業科	下請け作業としての年間生産数 ・くまで組立 20,000 本 ・ほうき組付 40,000 個 （その他清掃用品 6 種類の組付、加工、袋入れ） ・DMチラシ 640,000 枚 ・洗濯物畳み 420,000 枚 など
------	---

ウ 入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	25	9	2	32	40
女	5	0	0	5	
計	30	9	2	37	

エ 障害別状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	その他身体	知的障害	精神障害	その他	合計
1	17	1	19	7	0	37(8)

() 内は重複障害再掲

オ 障害程度区分（平成 26 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
12	1	8	11	4	1	0	37

カ 年齢構成（平成 26 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
3	4	9	12	7	2	37	40.8 歳

キ 利用状況

定員 (名)	月	実施日	延べ利用者数 (名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
20	4	22	554	25.1	125.5%
	5	22	580	26.3	131.5%
	6	21	530	25.2	126.0%
	7	22	559	25.4	127.0%
40	8	20	492	24.6	61.5%
	9	20	505	25.2	63.0%
	10	23	590	25.6	64.0%
	11	21	578	27.5	68.7%
	12	21	562	26.7	66.7%
	1	20	584	29.2	73.0%
	2	20	562	28.1	70.2%
	3	22	631	28.6	71.5%
	計	254	6727	26.5	87.3%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	305 名
レク介助	51 名
掃除	109 名

2 相談支援事業『りよくふう障害者相談センター』

千種区内の指定相談支援事業所は未だに2ヶ所だけだが、自立支援協議会や障害児相談支援連絡部会などと積極的に関わり、関係各事業所の特色や強みを把握して三障害に対応できる体制を整えてきた。

日常生活上の相談、孤独感や不安感に関する相談を受けることが多く、目に見えてすぐに結果の出る支援ではないが、安心して地域生活を送ることができるよう、一人ひとりのニーズや状況に応じた多種多様な相談に対応してきた。今後もご本人の想いを大切にして相談支援に努めていく。

ア 計画相談状況

月	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
4	11	4	5
5	3	2	7
6	4	7	11
7	6	6	8
8	8	7	6
9	4	4	9
10	1	1	7
11	4	5	10
12	6	5	6
1	3	4	5
2	4	6	10
3	4	3	5
計	58	54	89

VI 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
施設入所支援	
生活介護事業	
短期入所事業	
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』

開設3年目、看護師と生活支援員の増員により、新規の通所生活介護開設に備えた。4月には準備室員を任命し、前半に8回の定例会議を開催し準備を進めた。後半の10月には車両を購入し、2階で試行事業として3名の利用者で通所事業を開始した。2月から送迎、3月から入浴も一部開始し、3月末には名古屋市への事業申請も完了し清水基金からの補助金を受け、2階の改修工事を施工できた。

入所では途中1名の退所(吸痰者の肺炎による死亡)があり、施設での看取り・尊厳について議論を始めるきっかけとなった。稼働率平均は入所が96.6%、生活介護が100.8%、短期入所が88.3%で推移し、4月のインフルエンザ蔓延後の感染症予防対策が起きた1年だった。

10月、課長の交代を契機に、改めて全職員に理念浸透の研修を実施し新体制でスタートした。年間を通して女性介護士の採用は極めて厳しい状況が続き、日中の女性介護士パートの拡充で対応した。職員への権限移譲を進めた結果、更なる支援力・判断力・調整力向上が課題となり、対象を絞り込んだ研修や事象の振り返り等を通して職員育成に努めた。

1 障害者支援施設「戸田川グリーンヴィレッジ」

(1) 生活支援

毎月、モニタリング会議を実施し班会議にて周知を行った。年間19回のケース検討を行い、支援力の向上に繋げた。外部講師を招いた障害理解研修を2回(6月視覚障害 参加23名、12・1月知的障害 参加34名)と介護研修を3回開催し、専門知識の向上を図った。職員の外部研修参加は、年間延べ126回となった。また3月に、利用者週間プランの見直しを行った。

防災訓練等を年3回行い、火災時の避難について、より迅速な通報や排煙装置の周知・避難者の的確な確認のために避難手順のガイドラインを策定した。

(2) 日中活動

新たな活動で社会貢献の一環として作業意欲のある方を対象にエコ活動(古切手の切り取り、空き缶のプルタブ集め)を開始した。買い物外出はネットスーパー導入と個人外出機会の増加もあり頻度を少なくした。相談員主体の活動として利用者の相互理解と親睦を深める目的で月1回のグループワークを新たに開始し、高い参

加率となっている。

委員会で日帰り旅行の検討を続け、12月の満足度調査時に併せて、利用者アンケートを実施した。

(3) 事故報告・ヒヤリハット

前年度、本来は事故に分類すべきでない事例も事故と報告されていたため、事故・ヒヤリハットの基準を定め、ヒヤリハットの事例を共有分析し、事故の再発予防に努めた。事故220件、ヒヤリハット159件の報告があった。

(4) 看護・セラピスト部門

3月末～4月上旬に施設内で利用者・職員にインフルエンザが流行したため、主治医と連携し、予防と早期治療に努めた。4月に2名の看護師が入職(1名増員)し、入浴時のケア(看護視点での観察等)の充実、看護師不在日を減らす等業務全般の見直しを実施した。施設内で必要な看護教育を毎月実施し、10月より県身障協主催の痰吸引講習へ講師として参画した。

10月から拘縮予防・2次障害予防を目的に、支援員・看護・セラピストが協働でストレッチ活動を追加実施した。週1回の歩行訓練・手卓球も引き続きセラピストが中心となって実施した。7月に全国大会でのポスター発表、9月に東海北陸大会での研究発表を理学療法士が行い、成功に終わった。音楽療法士がボランティアの協力も得て音楽会を開催し、利用者の個別音楽活動の発表の場を提供した。

(5) 給食部門

実施献立の継続的見直しとメニュー構成を考え、夕食のメニューにカレーや丼ものなど昼食中心に提供していたメニューも取り入れた。

より広い業務知識を得るため、法人内他施設への派遣研修を行い、業務改善・意識改革の一助とした。なかなか定着しなかった調理パートの定着に向け、部署内外で連携し、育成の仕組みを検討し続けた。

通所生活介護開設に備えマニュアルの見直し、備品の購入等を実施した。

<行事>

5月 6日 ピクニックランチ 8月 1日 南国リゾートランチ

11月 21日 お寿司バイキング 12・1月 嗜好調査

<他部署との企画>

6月 29日 バーベキュー 9月 4日 炊き出し訓練(アルファー米使用)

12月 24日 クリスマス会 1月 24日 還暦祝い

2月 20日 ボランティア協力による鍋物会

(6) 事務部門

利用請求書の様式が変更となり、やや説明不足のため利用者からは若干の不安の声も聞こえてきたが、請求ミスを予防するために担当者2名での相互確認を行い、利用者には利便性の高い口座引き落としを推奨しながら、確実な請求業務に努めた。

木の香開設に向けての設備整備・車両や物品購入などの準備の他、入所部門と併せて利用者総数の増加に備え、入浴部分の設備増強を行った。消耗物品の在庫切れなども時折見られたため、今後より加速する消耗ペースの把握と適切な補充に努める。

(7) 環境部門

洗濯業務が行える職員が3名(専任1名、兼任2名)であったが、欠勤時の対応が困難であったので新たに2名に業務を習得してもらい、柔軟な対応を可能とした。清掃担当員の退職に伴い、各部門に廊下等の清掃担当場所を割り振り協力体制を構築した。

ア 入退所状況

性別	期首在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	24	0	1 (死去)	23	40
女	16	1	0	17	
計	40	1	1	40	

イ 障害別状況 (平成26年3月31日現在) ()内は重複障害再掲

脳性まひ	脳障害後遺症	頸髄損傷	二分脊椎	化膿性脊髄炎	視覚障害	リウマチ
22 (16)	4 (1)	3	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1
筋ジストロフィー	ハンチントン病	パーキンソン症候群	多発性硬化症	脊髄小脳変性症	知的障害 精神障害	合計
2	1	1 (1)	1	1	22	40 (22)

*最も顕著な障害で分類

ウ 年齢構成 (平成26年3月31日現在)

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
男	0	2	8	9	4	23	50.7歳
女	2	0	3	7	5	17	52歳
計	2	2	11	16	9	40	51.3歳

エ 障害程度区分別状況 (平成26年3月31日現在)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	1	1	5	33	40

オ 見学者受け入れ状況

月日	時間	見学者・団体名	人数
H25/4/17～19	宿泊にて	障害者支援施設ピカリコ	1名
4/24	13:30～14:30	エール名古屋	1名
4/25	13:30～14:30	西養護学校	1名
5/11	13:50～14:00	労災年金支援センター	1名
5/31	10:30～11:00	海部障害者就業・生活支援センター	2名
5/31	13:30～15:00	中川区自立支援協議会「医療的ケア」研修会	20名
6/21	10:30～11:10	名古屋市健康福祉局介護保険課	2名
6/26	11:00～12:20	豊明市基幹障害者相談センター フィット	2名
6/27	15:00～16:40	名古屋工学院専門学校 高等課程	2名
7/6	13:00～14:00	介護職希望者	2名
8/27	13:50～15:50	名古屋盲養護学校 職員見学会	13名
H26/1/15	10:30～12:00	福祉人材バスツアー	24名
1/23	14:00～15:40	名古屋市指定事業係	3名
2/25	10:00～11:30	福祉の杜	4名
合計			78名

カ ボランティア活動状況 (平成26年3月31日現在)

活動内容	活動回数	実人数	延人数	実人数	団体名・人数
パソコン講座	45回	2名	45名	2名	
組紐	22回	6名	97名	6名	
除草・剪定	8回	5名	8名	5名	
歌謡舞踊	2回	2名	4名	0名	なかがわのさと2名
裁縫	13回	2名	13名	2名	
ボッチャ	24回	2名	25名	2名	
数珠玉・創作	6回	2名	12名	2名	
イベント食	5回	11名	23名	7名	
同行	1回	3名	3名	3名	
サマボラ	20回	7名	33名	7名	
三味線ボラ	1回	4名	4名	0名	三味線サークル4名
生活支援ボラ	6回	3名	9名	3名	
秋祭り	1回	48名	48名	17名	江松15名・みつば会7名 かすりの会9名
値付け	1回	1名	1名	1名	
音楽会	1回	5名	5名	5名	
そば打ち	1回	6名	6名	6名	
クリスマス会	1回	1名	1名	1名	
合計	158回	110名	337名	69名	5団体(37名)・個人(36名)

2 短期入所事業『戸田川グリーンヴィレッジ』

4月に施設内でのインフルエンザ流行による利用率の低下があったが、それ以降は地域ニーズの高さから利用希望は増えている。新規登録は40名あり、208名の登録者となり、毎月60名程度が定期的に利用されている。将来の施設入所を見据えて、介護者のレスパイト、本人の自立目的等、利用理由はさまざまである。中には介護者等の事情によるロングステイ利用も数ケースあった。それぞれ不安を抱えながらの利用の中で、利用者本人へのエンパワメント支援が行われ、今までには気付かなかった自身の力を意識しての利用最終日を迎えることもあった。地域生活を支える重要な福祉サービスとして、新たな展開を見せた一年となった。

ア 短期入所及び通所利用状況

		短期入所 利用人数	短期入所 利用延べ 日数	短期入所 利用相談 件数	短期入所利用 新規登録者数		通所利用 人数	通所利用 延べ日数
					市内	市外		
4月	男	14	126	6	3	0	2	3
	女	16			1	0	4	5
5月	男	24	206	7	2	0	4	8
	女	25			1	0	3	5
6月	男	22	201	8	0	0	3	12
	女	26			4	0	5	8
7月	男	29	210	9	1	0	4	14
	女	26			1	1	4	5
8月	男	26	215	7	2	0	5	12
	女	28			0	0	3	5
9月	男	26	230	4	2	0	3	11
	女	28			1	0	6	9
10月	男	29	257	8	1	0	6	35
	女	32			2	0	5	12
11月	男	30	227	8	2	0	4	29
	女	27			2	0	5	9
12月	男	30	241	5	2	0	5	32
	女	27			0	0	5	10
1月	男	28	199	9	1	1	4	31
	女	25			0	0	6	12
2月	男	29	201	4	5	0	7	37
	女	24			2	0	3	12
3月	男	29	217	4	2	0	10	44
	女	29			1	0	3	14
合計		629	2530	79	38	2	113	374

3 相談支援事業『戸田川障害者相談センター』

支援センターや関係事業所からの紹介ケースが多かった前年度に対し、今年度については、本人や家族が直接申し込んでこられるケースがほとんどとなっている。計画作成は100件に達した。事前情報の無いまま、実は困難な課題を抱えており、介入の必要なケースも徐々に増え始めている。被虐待ケース、家族の高齢化、不安定な健康状態、介護者の疲弊等深刻なケースもある。関わっている事業所や行政機関等との連携を強化し、問題解決にあたるが多かった。今後も、更なる支援力、実践力の担保が相談員に求められている。

ア 計画相談状況

月	新規契約件数	利用計画作成	モニタリング
4	2	14	8
5	10	0	12
6	3	7	9
7	3	10	9
8	7	5	7
9	3	7	16
10	3	7	11
11	4	13	15
12	4	4	16
1	4	11	18
2	7	15	18
3	5	7	21
計	55	100	160

Ⅶ 名古屋盲人情報文化センター

視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

5月に名古屋市へ届け出た、白杖の補装具費申請の誤りは、利用者の皆様をはじめ関係各位の信頼を大きく損ねることとなり、職員一同気持ちを新たにし信頼回復に向けて取り組んだ1年であった。しかし、各自治体に対しての調査、報告、利用者の方への周知などさまざまな対応に追われることになり、当初の年度計画は大幅に停滞を余儀なくされた。

特に、今期の重点目標のトイレの改修などは次年度に持ち越すこととなった。

1. 職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			合計
	職員総数	内・視覚障がい者	音訳関係	点訳関係	その他	
H23年度	22	7	146	126	37	309
H24年度	20	7	151	120	34	305
H25年度	22	6	140	121	59	320

	ご寄付			
	個人	団体	～10万円	10万円～
H23年度	49	4	51	2
H24年度	54	7	57	4
H25年度	46	5	47	4

2. 図書館事業部

視覚障害者総合情報ネットワーク「サピエ」の本格始動から3年余、施設のみならず視覚障害利用者も会員となることで時間、地域差なく図書情報にアクセスできる環境が浸透しつつある。反面、パソコンやデジ再生機等を使いこなせるかどうか、その情報を受け取れるかどうかによって視覚障害者の間で大きな格差が生じ始めている。このような格差を是正するようなサービス提供が、今後地域において視覚障害者情報提供施設に求められてくる。

今年度、図書館事業部では、一人でも多くの利用者が円滑に図書館サービスを利用できる環境づくりと、地域で活動するボランティアと視覚障害者の橋渡しとなれる取り組みに着手した。

(1) 地域における利用者との橋渡しの強化

【地域のボランティアグループ活動の広報】

利用者と地域ボランティアグループの橋渡しの第1歩として、地域の音訳ボランテ

ィアグループの紹介をまとめたホームページや冊子を制作した。

愛知県下の社会福祉協議会、公共図書館に呼びかけを行い、39グループから紹介文を集めることができた。内容の確認、HPの方式等検討に時間を要したが、HPについては次年度の早い時期に公開できるところまで準備できた。

【地域での録音機器体験会の実施】

愛知県下の市町村に出向きプレクストークの機器体験会を以下のように実施した。

- ・ 8 / 30 豊橋市社会福祉協議会
- ・ 10 / 8 西尾市社会福祉協議会
- ・ 10 / 30 安城市社会福祉協議会
- ・ 11 / 19 日進市社会福祉協議会

(2) ライトハウスの他施設との連携の強化

【プレクストークの紹介、体験会】

同法人内の光和寮、マザー園の利用者を対象に施設に出向き以下のように体験会を行った。

- ・ 光和寮 5 / 1、8 / 28の2回
- ・ マザー園 5 / 29の1回

【つるかめ文庫の再開】

同法人のマザー園の入所者が自由に利用できる録音図書を定期的に貸出するサービス「つるかめ文庫」の方式について、マザー園の職員と連携し、利用状況やニーズを聞き取り、積極的に利用してもらえる形へと提供方法を見直し、2月より再開した。

(3) 利用者とのコミュニケーションの強化

利用者の日常的な読書環境の安定を図るため、貸出業務の基本サービスの強化を図るべく、部全体で作業の効率化やルールの見直しについて意見交換を行い以下の点について意を用いた。

- ・ 「みちしお」にて基本サービスの説明、注意事項の告知を行った。
- ・ 図書館を初めて利用する読者向けの冊子「図書館利用ガイド」を作成し、次年度4月より配布することとした。
- ・ 貸出の基本サービスに質問を絞り、電話での聞き取り方式での「顧客満足度調査」を実施。最も多く寄せられた「1度に貸出できるタイトル数を増やしてほしい」等の声に応えるべく準備を進めた。

(4) プライベート資料の制作、対面読書・代筆・墨訳サービス・プレクストーク個人講習の実施

各種資料・教養講座等のテキスト・家電等の取り扱い説明書等、個人持ち込みの「プライベート制作物」の速やかな点訳・音訳を行うよう意を用いた。

また視覚障害者の情報保障の一助として当施設内にてマンツーマン形式の対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストークの個人講習を引き続き実施し、内容の充実を図った。

(5) 点訳者・音訳者の育成と研修

音訳では9月より受講者13名で新人養成講習をスタートし、3月末で全員が受講を終了、次年度から活動を開始する。

点訳では11月から受講者14名（内3名再受講）で新人養成講習をスタートし、全員が次年度開催のフォローアップ講習会に進むこととなった。

活動中のボランティア向けには各種勉強会、および研修会を随時行った。

(1) 蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H23年度	10,079	35,090	8,570	49,323	5,939	6,171
H24年度	9,151	31,314	7,346	41,792	6,975	6,977
H25年度	7,481	28,078	5,289	32,090	7,530	7,676

(2) 新規製作図書

①蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数（内リクエスト）	冊数	タイトル数（内リクエスト）
H23年度	251 (6)	917	195 (35)
H24年度	215 (9)	1084	191 (38)
H25年度	283 (7)	1007	208 (48)

②雑誌

	点字		録音（テープ）		録音（CD）	
	月刊	隔月	月刊	隔月	月刊	隔月
H23年度	2タイトル	—	—	—	84タイトル	18タイトル
H24年度	2タイトル	—	—	—	84タイトル	18タイトル
H25年度	2タイトル	—	—	—	72タイトル	18タイトル

③プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H23年度	85	101	10
H24年度	73	94	11
H25年度	90	125	10

④サピエデータアップ状況

	点字データ		デিজィータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
H23年度	389	1,575	1,033	8,669時間 40分
H24年度	391	1,512	812	6,786時間 38分
H25年度	415	1,651	285	2,391時間 38分

(3) ボランティア養成

①点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ [°] 講習	英語点訳
H23年度	1講座 15回 延べ 209名	1講座 22回 延べ 308名	1講座 23回 延べ 161名
H24年度	—	1講座 21回 延べ 294名	1講座 23回 延べ 161名
H25年度	1講座 16回 延べ 212名	—	1講座 23回 延べ 138名

延べ 212名

②音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ [°] 講習	校正者 養成講習 (フォローアップ [°])	プリントモニター 養成講習
H23年度	21回 153名	8回 50名	1回 11名	—
H24年度	22回 244名	10回 68名	1回 21名	—
H25年度	22回 280名	7回 60名	1回 6名	—
	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレクストーク 操作講習	
H23年度	7回 313名	54回 816名	11回 65名	
H24年度	7回 272名	30回 646名	6回 39名	
H25年度	6回 215名	31回 650名	5回 31名	

(4) 貸出

①登録者

	個人 (内・サピエ)	団体
H23 年度	2,482 (504)	551
H24 年度	2,319 (410)	473
H25 年度	2,287 (629)	610

②利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H23 年度	175	4,143	193	4,507	650	23,699
H24 年度	526	4,697	321	3,987	1,040	32,376
H25 年度	554	4,750	282	2,561	1,046	28,116

③資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H23 年度	4,449	6,745	4,901	17,084	28,324	28,505
H24 年度	4,697	8,400	3,987	15,113	32,376	32,420
H25 年度	4,762	7,627	3,965	14,978	27,851	27,919

④オンラインリクエスト

	リクエスト送信数 (施設)	リクエスト送信数 (個人借受)	リクエスト送信数	リクエスト受信数
H23 年度	4,402	2,629	7,031	4,381
H24 年度	2,663	3,610	6,273	6,251
H25 年度	1,668	3,914	5,582	5,468

⑤コンテンツ利用状況集計(点字データ)

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H23 年度	12,859	52,752	208	25,260
H24 年度	13,409	54,244	215	25,330
H25 年度	12,661	49,491	222	25,077

⑥コンテンツ利用状況集計(デジータ)

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用 者	再生 延べ利 用者	ダウン タイト ル数	ダウン 時間	ダウン 実利用 者	ダウン 延べ利 用者
H23 年度	2,781	2,878 時間 6分	33	6,597	14,140	117,51 8時間 52分	265	45,207
H24 年度	2,542	2,453 時間 8分	31	6,225	16,536	133,53 4時間 21分	274	76,005
H25 年度	6,242	7,071 時間 13 分	122	21,458	17,802	140,99 2時間 14分	331	93,087

⑦デジータオンライン

	A会員		B会員		合計	
	実利用 者数	登録タイ トル数	実利用 者数	登録タイ トル数	実利用 者数	登録タイ トル数
H23年度	3	11	0	0	3	11
H24年度	1	4	0	0	1	4
H25年度	2	12	0	0	2	12

(5) 情報提供

	ホームペー ジ 訪問者数	テレホン サービス	電話ホ (中日春秋)	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メール マガジン
H23年度	3,039件	2,064件	終了	29名	6回 257名	373件
H24年度	7,521件	907件	終了	29名	6回 266名	485件
H25年度	8,517件	786件	終了	31名	6回 264名	403件
	点字出力 サービス	対面読書 サービス	代筆・墨訳 サービス	利用者向け フレクストーク 個人講習		利用者向け フレクストーク 操作体験会
H23年度	32,000枚	16件	23件	31回 31名(19名)		2回 19名
H24年度	11,430枚	18件	20件	6回 6名(5名)		5回 34名
H25年度	8,243枚	13件	9件	13回 13名(9名)		7回 40名

カッコ内実人数

3. 点字出版事業部

今年度から新規受注の「声の広報なごや区民版」においては、前年度開催の技術講習を経た各区ボランティアの制作体制を元に、一年間滞りなく毎月発行することができた。

昨年度からの課題であった出版物発行における活動部隊(ワーキンググループ)に

おいてはなかなか着手ができず、年度途中ではあったが事業計画を見直し縮小した。結果、事業計画のひとつであった点字企画商品「ぽち袋」を販売することができた。

7月の参院選では日盲委選挙情報支援プロジェクトに参加、また4月からの消費税改正に伴い名古屋鉄道をはじめとする点字運賃表の受注が潤ったことで、今年度は出版会計がシステム化した平成13年度以降で最高の売上額となった。

(1) 点字出版物製作

①オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	گریティ ソフカー ト	年賀状 点図シ ール	一筆箋	エコ バッグ	ポチ袋
H23年度	1,190冊	25タイトル	885タイトル	178枚	1,695枚	94冊	72枚	
H24年度	1,191冊	8タイトル	427タイトル	114枚	1,411枚	117冊	33枚	
H25年度	1,105冊	3タイトル	45タイトル	126枚	1,395枚	100冊	4枚	85枚

②受注製作物 (定期刊行物・点字教科書)

	名古屋市 (広報なご や・市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H23年度	印刷 253,382枚	印刷 14,958枚	印刷 94,945枚	生徒1名 1科目
H24年度	印刷 240,337枚	印刷 13,603枚	印刷 80,959枚	生徒0名 0科目
H25年度	印刷 214,323枚	印刷 9,891枚	印刷 81,601枚	生徒0名 0科目

③その他受注製作物

	名古屋市 (行政資料等)	施設・団体 (資料等)	一般企業 (資料・メニュー等)	選挙情報 (名簿・投票用 紙・公報)	公共料金明細 (電気・ガス ・水道)	点字 名刺
H23年度	16件 92,699枚	37件 111,109枚	22件 49,806枚	59件 21,609枚	印刷 7,839枚	141名 19,301枚
H24年度	15件 67,060枚	44件 31,494枚	27件 157,288枚	26件 237,147枚	印刷 7,102枚	167名 21,629枚
H25年度	16件 77,455枚	31件 43,901枚	15件 167,327枚	35件 265,958枚	印刷 6,944枚	143名 22,548枚

(2) 点字技術支援（点字サイン・UV加工等）

	点字案内板・ プレート	鉄道駅構内触 図案内板	鉄道駅 手すり案内板	鉄道駅 運賃表	タクシー 車内シール	UV加工
H23年度	2,620枚	19駅30枚	27駅306本	3駅4冊	71枚	56点
H24年度	3,265枚	6駅10枚	14駅279本	3駅3冊	424枚	62点
H25年度	4,480枚	8駅12枚	29駅284本	132駅167冊	107枚	186点

4. サービス事業部

視覚障害者の日常生活を多方面より支援していくため、以下の活動を行った。

(1) 社会参加・活動支援

社会生活力を高め、生活を豊かにするための情報提供・学習の場である、「MAJ講座」を、引き続き月1回程度開催した。

また、継続して相談支援を実施するとともに、中途失明者緊急生活訓練事業（補助事業）において、点字学習以外に「料理・お菓子教室」、「ぴあカウンセリング講座」を実施した。

(2) 用具斡旋販売事業

視覚障害者の毎日の生活が豊かで便利になるような新商品の開拓・紹介を積極的に行った。昨年度末に過去の補装具のための見積書・請求書に誤りが発覚した。そのため、名古屋市と他市町村から申請のための見積書の発行停止処分を受けた。停止期間・再開後ともに利用者へ補装具の制度・用具商品説明を丁寧にわかりやすく行った。

訪問販売では、これまでの盲学校に加え、光和寮・マザー園などの法人内施設や名古屋市総合リハビリテーションセンター等へ出かけ、当事者への用具の販売・情報提供を広げた。

本年度より日本盲人社会福祉施設協議会用具部会へ加入し、他施設・業者と情報交換をはかった。

(3) IT訓練支援

引き続き個人講習やITにかかわる相談にも積極的に応じるとともに、就労支援として、障害者雇用支援機構の雇用管理サポート事業、愛知障害者職業能力開発校の委託訓練にも取り組んだ。

(4) 地域支援

小中学校等の福祉実践教室をはじめ、ガイド・点字体験、施設見学などの対応を行うとともに、社会福祉協議会等の関係機関が開催する関連講習会等に職員・ボランティアを派遣し、地域の視覚障害者に対する啓蒙活動を行った。

(5) 同行援護従業者養成

居宅介護従業者等養成事業所として同行援護従業者養成研修（一般・応用課程）講

習会を開催し、視覚障害者の外出支援をサポートする人材を育成した。

他の事業所が行う研修会等に講師を派遣し、「視覚障害」の専門性に特化した講習会の実施に協力した。

この事業は、メイン講師を担当できる職員が不在になったため、平成26年1月から法人事務局へ移管した。

(1) 社会参加・活動支援

①相談支援

	相談支援		合 計
	継続支援(件)	新規支援 (件)	
H23 年度	66	112	178 件 (実人数 109 人)
H24 年度	91	134	225 件 (実人数 120 人)
H25 年度	93	99	192 件 (実人数 100 人)

	生活	マニ ケション	就労	学 業	ピア カ ン	家 族	ロービ ジョン	移動	その 他	計 (件)
H23 年度	53	25	22	1	74	9	3	7	16	210
H24 年度	65	16	26	5	93	9	2	9	32	257
H25 年度	30	33	26	11	79	3	4	4	30	220

*相談内容によって複数の項目でカウント

②中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導			料理・お菓子教室		
	人数	うち新規	回数	自主受講	延べ人数	講座数
H23 年度	20	8	43	15 名	87 名	12
H24 年度	19	5	46	12 名	71 名	12
H25 年度	17	4	44	10 名	56 名	12

(2) ガイドヘルパー養成講習会

	ガイドヘルパー養成			ガイドボランティア指導		
	講座数	延回数	受講者数	講座数	延回数	受講者数
H23 年度	休止	休止	休止	休止	休止	休止
H24 年度	2	10	56	3	3	14
H25 年度	2	10	34	休止	休止	休止

(3) IT 訓練支援

	相談 (延人数)	リモートサポ ート	個人指導	集団指導	IT バス
H23 年度	729	2	191	6	サービス終了
H24 年度	781	11	560	210	サービス終了
H25 年度	761	0	389	175	サービス終了

(4) 地域支援

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高等学校	その他施設	計
H23 年度	11	17	28 件	10 件	6 件	16 件 165 名
H24 年度	8	16	24 件	1 件	18 件	19 件 129 名
H25 年度	3	20	23 件	1 件	10 件	11 件 82 名

(5) MAJ (みんなあつまれ情文へ) 講習

	回数	延べ人数
H23 年度	34 回	166 名
H24 年度	10 回	72 名
H25 年度	10 回	71 名

(6) 用具サービス

	読書支援機器			
	ブックストア(録音・再生)PTR2	ブックストア(再生専用)PTN1 /PTN2	拡大読書器	小型ブックストア PTP1・リンクポケット
H23 年度	57	81	52	65
H24 年度	42	61	55	65
H25 年度	36	52	49	50

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H23 年度	459	PC-Talker(21)	ネットリーダー(19)	MyMailIII(18)
H24 年度	488	PC-Talker(35)	ネットリーダー(21)	MyMailIII(20)
H25 年度	434	PC-Talker(49)	MyMailIII(31)	ネットリーダー(22)

5. 利用者及び地域住民との交流事業

港区ふれあい広場(10月27日)には職員が実行委員として参加し準備を進めるとともに、当日はとも会の協力も得て点字体験・録音体験・バザーを実施した。

11月17日には、名古屋盲学校において第2回ユニバーサル運動会を開催。今回は、実行委員会の事務局として共催団体の中心として準備に取り組んだ。

6. 関係団体との連携事業

全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）、日本盲人社会福祉施設協議会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会（中部ブロック）、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会の会員として、委員を派遣するとともに会議、研修会などに積極的に参加・協力をした。特に、中部ブロックは、事務局として会の運営を行った。

名古屋市視覚障害者協会（名視協）、名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、愛知障害者職業能力開発校、愛知視覚障害者援護促進協会、東海音訳学習会など中部地区の関係団体と密接に連携し、視覚障害者の文化・福祉向上に貢献した。

9月29日のアンサンブル・アミー（視覚障害者ラテンバンド）のコンサートには、ボランティア及び職員を派遣し開催に協力した。

VIII 瀬古マザー園 拠点

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』
居宅介護支援事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

マザー園の経営環境がさらに厳しくなる中、特養において計画した新たな加算への取り組みは、認知症研修修了者と介護福祉士取得者を一定数配置できることによる2つの加算を、次年度取得できる見込みとなるなど一定の成果をみるに至った。また在宅部門においては「居宅・デイ連絡会議」を立ち上げ、新規利用者の獲得へマザー園が一丸となって動ける体制整備を行なった。

一方、感染症に対しては、早い段階から予防対策を講じたものの、年明けから体調不良者が続出し、また、インフルエンザが利用者・職員に流行するなど一時緊急事態を招いてしまった。次年度へ向けて従来の予防対策を抜本的に見直し、新たな対策を模索していく。

医療関係の連携においては、4月より特養を中心に訪問歯科医の定期往診を開始し、歯科医療において迅速な対応がとれるようになった。合わせて歯科衛生士の訪問による定期的な口腔ケアの実施により、誤嚥性肺炎の防止や、利用者の状態に合わせた食事提供につなげることができた。

長年の懸案事項であった協力病院については、12月に近隣の大隈病院と協力医療機関協定書を締結でき、連携強化を図ることができた。

人材育成面については、本年度も職場研修の定期開催や外部研修への参加に積極的に取り組んだ。引き続き日中おむつゼロへの取り組みにより、職員の介護力の底上げを図りつつ、認知症及び視覚障害者支援に関する専門研修にも力を入れていく。

懸案となってきた給湯管の更新工事については、本年度前期で本体部分が終了し、残りのボイラー室の配管についても年度末までに更新工事は全て完了した。

環境整備プロジェクトについては、マザー園周囲の樹木の剪定や食堂前菜園の整備など園内の環境整備を、年間計画に沿って着実に実施することができた。

1 特別養護老人ホーム 瀬古第一マザー園

本年度の利用率は90.6%と前年度マイナス1.3ポイントであった。前年度冬季の経験を踏まえ感染症対策の強化に努め、それらに起因する入院者は減少したものの、他の疾患や持病の悪化などによる入院者が相次ぎ、前年度と同様に冬季利用率が大きく低下する結果となった。年間でも入院者延べ61名（前年度+9名）、退所者22名（前

年度+5名)と増加、年々在園期間も短くなっており、入退院や入退所の調整に追われ安定した利用率を維持することができなかった。

一方、介護報酬増収に向けた取り組みとして、加算算定要件を満たすための研修への参加を推進し、プロジェクトチームによる計画的な取り組みを進めた。その結果、7月より口腔機能維持管理加算の算定を開始、また26年度からは認知症専門ケアおよびサービス提供体制に関する加算が算定できる運びとなった。

次年度も、引き続き課題となっている利用率低下防止対策を重点課題として取り組むとともに、個々の利用者の状態に応じた自立支援ケアへの転換を目指し介護力向上の取り組み強化、次期介護報酬改定に向けた準備を進めていく。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	12	8	5	15	60
女	46	13	17	42	
計	58	21	22	57	

イ 要介護度状況 (平成26年3月31日現在)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度
4	8	22	15	8	57	3.3

ウ 施設利用状況

定員(人)	月	延べ在籍者数(人)	1日平均在籍者数(人)	利用率(%)
60	4月	1,692	56.4	94.0
	5月	1,660	53.5	89.2
	6月	1,677	55.9	93.2
	7月	1,710	55.2	91.9
	8月	1,692	54.6	91.0
	9月	1,670	55.7	92.8
	10月	1,742	56.2	93.7
	11月	1,660	55.3	92.2
	12月	1,715	55.3	92.2
	1月	1,494	48.2	80.3
	2月	1,494	53.4	88.9
	3月	1,636	52.8	88.0
	年間		19,842	54.4

2 盲養護老人ホーム 瀬古第二マザー園

前年度は欠員を生じることもあったが、本年度は年間を通じて月始の在籍者で定員を維持し、現在は入所希望者も増加し、安定した利用率を維持することができた。

利用者支援においては、「視覚障害を持った高齢者への支援」および「安心して過ごすことのできる生活の場の提供」を目指し、利用者の健康維持増進や生きがいをづくり、計画的継続的な関わりや介護予防的な活動に取り組んだ。また管理や合理化が不十分であったサービスおよび情報の集約と運用方法の見直しを行い、一元化・合理化を図るとともに、支援計画の内容や運用方法の改善を図ることにより統一した支援に努めた。専門性向上に向けては各種研修への参加とともに、名古屋盲人情報文化センターの協力も得て利用者向けの福祉用具説明会や展示会等を催した。

次年度は盲養護老人ホームの特性である、高齢でかつ視覚障害のある方への支援という視点を持ちつつ、利用者一人ひとりがワクワク感を持てるよう支援に努め、「利用者一人ひとりのニーズや状態に応じた支援の実践」を目指していく。

ア 入退所状況

性別	前期末在籍者	入所者	退所者	期末在籍者	定員
男	17	3	3	17	50
女	33	3	3	33	
計	50	6	6	50	

イ 施設利用状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍者	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	—
入所	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	5
退所	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	5

ウ 視覚障害等級別状況

1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	計
35	10	3	0	1	0	1	50

エ 要介護度状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
41	1	1	4	3	0	0	0	50

3 高齢者デイサービス

(1) 瀬古マザー園デイサービスセンター

年間延べ利用者 5, 739 名 (前年度 5, 631 名)、1 日平均利用者数 18.7 名 (前年度 18.3 名) となった。

本年度は個別機能訓練加算Ⅱの取得に取り組み、計画、実施、評価までの仕組みが

定着してきている。現在12名（利用登録者数48名中）が実施しており、今後も継続、拡大を図っていく。

また、次年度は特色あるデイサービスをアピールし、利用者確保に努めると共に質の高い認知症ケアの実践を目指し取組んでいく。

ア 利用登録状況

性別	前期末在籍者	登録者	解除者	期末在籍者	定員
男	6	1	2	5	30/日
女	42	6	5	43	
計	48	7	7	48	

イ 要介護度状況（平成26年3月31日現在）

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
2	8	16	12	6	3	1	48

ウ 施設利用状況

定員(人)	月	実施日	延べ利用者数(人)	1日平均利用者数(人)	利用率(%)
30	4	26	483	18.6	61.9
	5	27	474	17.6	58.5
	6	25	469	18.7	62.5
	7	27	537	19.9	66.2
	8	27	495	18.3	61.0
	9	24	443	18.6	61.5
	10	27	521	19.3	64.3
	11	26	507	19.5	65.0
	12	24	469	19.5	65.1
	1	24	435	18.1	60.4
	2	24	436	18.2	60.6
	3	26	470	18.1	60.2
	計	307	5,739	18.7	60.9

(2) 矢田マザー園デイサービスセンター

年間延べ利用者は6,445名（前年度6,401名）、1日平均利用者数21.0名（前年度20.7名）で前年比100.6%であった。

本年度は上期の利用者数が前年度に対し109.6%とかなり数字が上がった。

しかし、下期は毎月7～10名の入院と施設の入所が続き、数字が落ち込んでしまった。7月から収入増を目指し、個別機能訓練加算Ⅱのサービス提供を開始したものの、落ち込んだ収入のカバーにならなかった。

次年度から利用者確保のためにお試し利用を無料化し、利用率アップに向けアピールを行ない、一人でも多くのお試し利用の受け入れ、本利用開始に繋げていく。

ア 利用登録状況

性別	前期末在籍者	登録者	解除者	期末在籍者	定員
男	14	2	9	7	30/日
女	53	22	18	57	
計	67	24	27	64	

イ 要介護度状況（平成 26 年 3 月 31 日現在）

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
4	12	13	18	9	5	3	64

ウ 施設利用状況

定員	月	実施日	延べ利用者数(人)	平均利用者数(人)	利用率 (%)
30	4	26	589	22.7	75.5
	5	27	572	21.2	70.6
	6	25	531	21.2	70.8
	7	27	612	22.7	75.5
	8	27	609	22.6	75.1
	9	24	527	22.0	73.1
	10	27	545	20.2	67.2
	11	26	545	21.0	69.8
	12	24	474	19.8	65.8
	1	24	455	19.0	63.1
	2	24	459	19.1	63.7
	3	26	527	22.2	67.5
	計	307	6,445	21.0	69.9

4 瀬古マザー園短期入所生活介護事業所

利用率は 70.9% で前年度比マイナス 7.8% であった。利用率向上の取り組みとして、空床ベッドの活用や瀬古デイサービスおよび矢田デイサービス利用者へのショートステイ交互利用の働きかけ、特養入所待機者へのショートステイ利用の働きかけを実施。結果としては、新規登録者数は 17 名と前年度を大きく上回ったものの、施設入所（瀬古第一マザー園含む）による利用中止や単発的な利用に留まったケースも多く、利用率向上には至らなかった。今後も利用しやすい環境づくりと対外的な広報活動に努め、より多くの方にご利用いただけるよう取り組んでいく。

ア 利用登録状況

性別	前期末在籍者	登録者	解除者	期末在籍者	定員
男	2	2	3	1	4/日
女	12	15	10	17	
計	14	17	13	18	

イ 要介護度状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
0	0	1	6	5	4	2	18

ウ 施設利用状況

定員 (人)	月	延べ利用者数 (人)	1日平均利用者 数(人)	利用率(%)	利用人員(人)	
4	4	82	2.7	68.3	9	
	5	101	3.3	81.5	10	
	6	94	3.1	78.3	8	
	7	85	2.7	68.5	11	
	8	71	2.3	57.3	10	
	9	75	2.5	62.5	10	
	10	89	2.9	71.8	10	
	11	95	3.2	79.2	10	
	12	88	2.8	71.0	13	
	1	92	3.0	74.2	12	
	2	82	2.9	73.2	11	
	3	81	2.6	65.3	12	
	計		1,035	2.8	70.9	126

5 瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所

本年度ケアプラン作成件数は753件(前年度553件)で、前年度比136%と大幅アップとなり、職員2名体制が定着している。介護支援専門員の能力アップや情報収集には積極的に取り組みを行ない、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会、守山居宅連絡会等を始め、医療機関への研修にも参加しており、マザー園内の事業所や各いきいき支援センターとの連携にも力を入れてきた。

次年度においては、さらに地域との連携を深めるため、社会福祉協議会や地域住民と関わる機会を増やすことで、新しい利用者の獲得に繋げていく活動を進めていく。

ア 施設利用状況

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ケアプラン 作成件数	支援		8	16	16	17	17	17	15	17	18	20	22	21	204
	介護		45	47	45	48	47	46	44	43	46	44	43	46	544
計			53	63	61	65	64	63	59	60	64	64	65	67	748

6 瀬古平成会館

老朽化し効きが悪くなった空調設備（電気エアコン）のメンテナンスを前年度実施したが、次年度に向けて2階会議室の通帳設備更新を考えており、現在その準備を検討中である。

地域でのコミュニティセンターとしての役割も担い、年々施設利用者が増加し、対前年度27%余り収入増となった。引き続き、会館の維持管理・運営について利用基準の明確な運用に心がけ公益事業としての役割を果たしていく。

ア 施設利用状況

定員	月	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
4	4	73	817	15
	5	23	328	11
	6	30	439	15
	7	47	553	11
	8	31	313	12
	9	44	496	10
	10	36	735	13
	11	60	506	12
	12	28	645	9
	1	26	411	8
	2	27	409	10
	3	31	655	15
	計		456	6307

7 ボランティア受入れ状況

学校関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人数
守山西中学校	132名	8月末旬	利用者とのふれあい ジャズアンサンブル披露	132名
守西保育園	20名	6、11月	歌の披露、利用者との ふれあい	40名
誉高等高校	1名	8月	夏期高校生ボラ活動	2名

団体関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人数
グループあすなろ	4～6名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	約165名
瀬古小 PTA ママさん コーラス	12名	12月	ハンドベル・合唱の披露	11名
愛知県理容生活衛生 同業組合（守山支部）	5～6名	毎月 第一水曜	理髪奉仕（有償）	55名
尺八同好会	5名	12月	演奏会	5名
点字ボランティア	約3名	月1～2回	毎月の行事予定・献立 の点訳	48名
守山区自治会等	4	11月	地域交流会手伝い	4名

個人

項目	活動日	活動内容	年間延 活動人数
書道指導	月1回	書道クラブ（瀬古入所者）	12名
書道指導	月1回	書道教室（矢田利用者）	12名
俳句指導	月1回	俳句クラブ	11名
音楽指導	月2回	音楽クラブ	21名
理美容	特:月1、養護:月3	特養・養護美容奉仕（有償）	33名
陶芸指導	月1回	陶芸クラブ	14名
時計店	月1回	入所者時計修理	12名
音楽療法	月2回	特養・デイ利用者へ音楽療法（有償）	23名
行事付き添い	随時	入所者外出行事付き添い	28名
裁縫	月1回	養護・特養の繕い物作業	33名
養護	随時	個別訪問、話し相手等	5名
デイサービス	随時	エステ、入所者対応	23名
ダンス・盆踊 り指導	4月～8月	ダンスクラブ 1回当たり約4～5名	31名
演奏会	月1～3回	瀬古デイ・矢田デイ・養護	23名
ふれあい祭	11月	地域交流会にて	47名

ボランティア総数 (延べ人数)	約790名
年間1日あたり人数	約2.2名